

CONTENTS

3 ● 県政フロントページ

東北新幹線「はやて」運転開始!
広がる北東北の魅力

10 ● 県政プロジェクト
木質バイオマスの活用
森から生まれる新エネルギー

8 夢県土の未来派たち
和の音を気軽に奏でられる
新しい弦楽器「和音」
協同組合岩手木工センター（盛岡市）

15 イーハートブ不思議図鑑
霧の氷

7 NEWSのカタログ

12 インフォメーション

16 IWATE Art Gallery
十三代鈴木盛久「八卦紋独楽釜」

14 県営施設情報ほか

そんな ● 手の エピソード

12月1日、東北新幹線盛岡ー八戸間の開業に伴い、第三セクター「IGRいわて銀河鉄道」が開業。同鉄道はJR東日本から経営分離された東北本線のうち盛岡から青森県側の県境である目時まで、約82キロを引き継ぐ。新車両の車体には、銀河鉄道の空や星の輝きをイメージしたスターライトブルーやスターライトイエローのラインが走り、ラインの上には流れ星をイメージしたロゴマークがあしらわれている。車内には、車いす対応型トイレ、運賃表や次の停車駅がわかる案内表示器、ホームからの転落を防ぐ転落防止装置などが備えられ、乗客が2人掛けて向かい合うクロスシートも一部に設けられている。運行は2両編成のワンマン運転が基本。ダイヤは列車の大幅な増発や快速列車の運転など、利便性の向上を図るため、さまざまな工夫がなされている。

東北新幹線「はやて」運転開始!

広がる北東北の魅力

12月1日、北東北の新しい未来を拓く
東北新幹線盛岡・八戸間が開業。
東京・八戸間は最短で2時間58分!
本県では「いわて沼宮内」と「二戸」の2駅が新たに開業。
また同日、並行在来線「いわて銀河鉄道」も運行を開始。



スターライトが輝く
「いわて銀河鉄道」が
イーハートブの大地を快走する

はやての停車駅



「はやて27号」「はやて4号」は古川、一ノ関、北上にも停車します ※「はやて2号」は大宮駅通過となります



東北新幹線「はやて」運転開始!

北東北の未来を担って
新幹線北へ

白とブルーを基調とした車体に、ピンクのラインと、リングをモチーフにしたスピード感をプラスしたシンボルマークの新しい新幹線「はやて」。十二月一日、北東北の未来を担って、東北新幹線盛岡・八戸間が開業。盛岡・八戸間は、営業キロで九十六・六キロメートル。「はやて」は東京・八戸間三十本（十五往復）、仙台・八戸間二本、合わせて一日三十二本運行され、所要最短時間は盛岡・八戸間でこれまでより三十五分短い二十九分、東京・八戸間はこれまでより三十七分短い二時間五十六分で結ばれることとなります。

なお、県内には二つの停車駅ができました。「いわて沼宮内」と「二戸」です。それぞれ、上下合わせて十六本、二十二本が停車します。

新技術の採用で
乗り心地、快適性が向上

盛岡駅を出発すると、左手に雄大な岩手山。座席二列にまたがる、幅二・六m

の大きな窓で、沿線の景色をたっぷり楽しめます。車内の空調は、吹き出し口を各荷棚の下に設けており、快適性が向上しました。トイレは車いすでも利用でき、ベビーシートを設置しているほか、温水洗浄式暖房便座が初めてとり付けられています。内装はゆとりと品格があり、横揺れを抑え、スムーズなプレーキングを行う新技術の採用により、乗り心地が一段と向上しています。

また、はやては二本（一往復）を除いて「こまち」と接続して運行されますが、現在の「やまびこ」より二両多い十両編成となり、東京・盛岡間の輸送力は大幅にアップします。盛岡・八戸間も、現在の「はつかり」と比較して二倍以上の乗客を運ぶことができます。

地域経済の発展と
生活領域を拡大

昭和五十七年の盛岡・大宮間の新幹線開業により、本県盛岡以南と仙台、首都圏との時間距離は大幅に縮まり、生活領域は広くなり

ました。盛岡・八戸の開業により、県北地域や沿岸北部地域でも、同じような効果が期待できます。ビジネスはもちろんだ、観光・レジャー、帰省時など、移動時間が短縮されることでこれまで以上に生活領域が大きく広がります。

すでにこれらの地域の市町村や観光団体などは、魅力ある観光コースや観光客の受け入れ態勢づくりなどで広域的な連携を深め、観光宣伝活動を展開しています。

さらに、八戸以北についても、「つがる」「白鳥」「スーパードライ」といった特急が新設され、青森、弘前、北海道との移動時間も短縮されることから、今後ますます、岩手、青森、秋田、北海道を含めた広域圏の連携・交流の拡大が期待されます。

身近な生活路線
「いわて銀河鉄道」

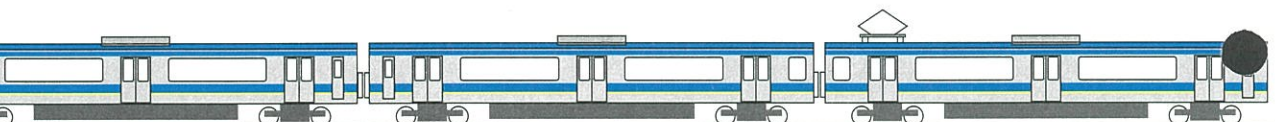
東北新幹線盛岡・八戸間の開業と同時に、第三セクター「IGRいわて銀河鉄道」が開業します。これまでの東北本線の一部を引き

継ぎ、生活路線であるとともに、物流の大動脈である幹線として、盛岡・目時間八十二キロメートルを運行します。

「いわて銀河鉄道」のシンボルカラーは、スタライイトブルー。銀河の星に照らされて明るく無限に広がる岩手の空を表現しています。

この路線は、通勤・通学の利用者が多く生活路線であることから、沿線の皆さんがより利用しやすいよう、運転本数を大幅に増やしたほか、快速列車を一日四往復運転し、最終ダイヤの時間を遅くするなど、より親しまれる路線を目指しました。

また、目時・八戸間を運行する「青い森鉄道」や花輪線などと連携し、直通運転を行います。



IGRの運転本数

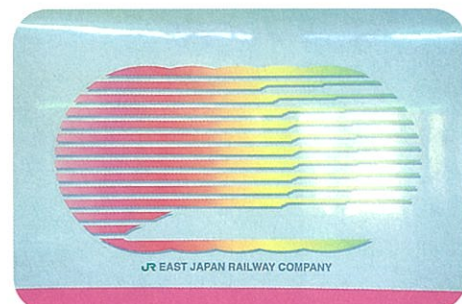
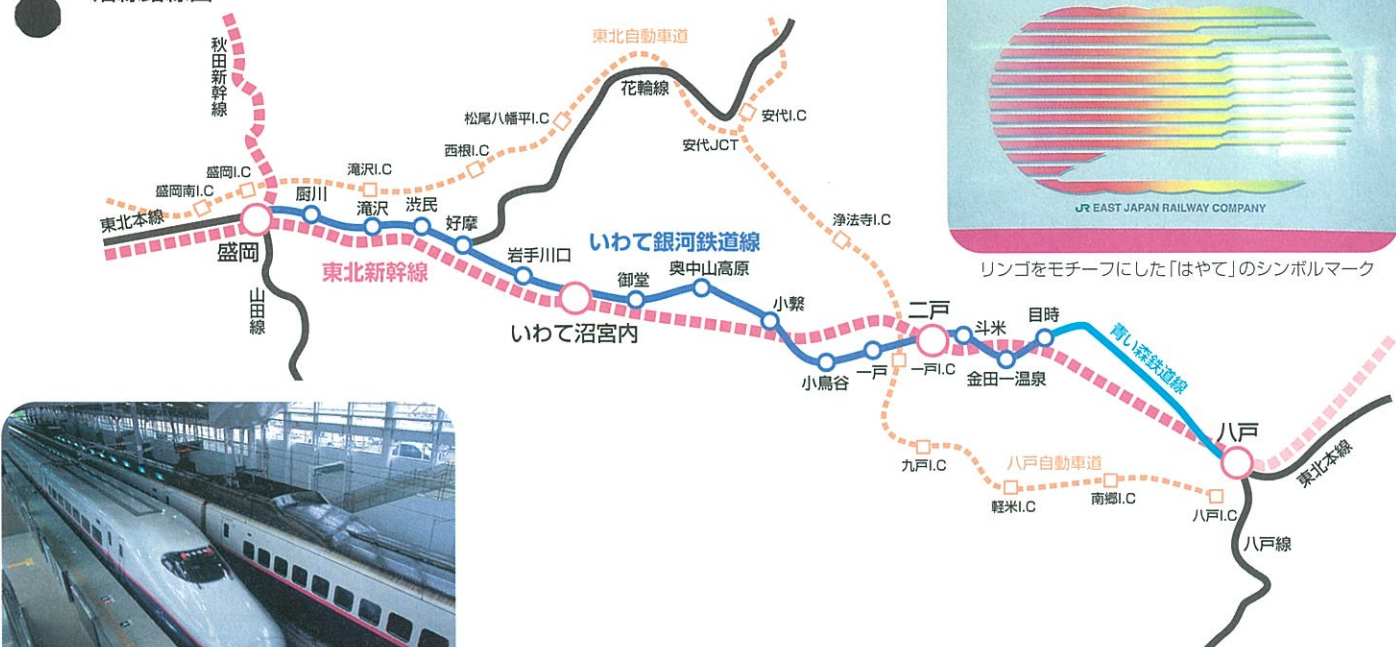
駅間	現在本数	開業後本数[快速]	増減
盛岡～滝沢	61	75 [8]	14
滝沢～好摩	59	71 [8]	12
好摩～いわて沼宮内	35	49 [8]	14
いわて沼宮内～一戸	16	31 [8]	15
一戸～二戸	17	32 [8]	15
二戸～金田一温泉	19	34 [8]	15
金田一温泉～目時	19	32 [8]	13

※本数は平日で、現在本数（JR）は特急列車を除き、開業後本数（IGR）は快速列車を含みます



「いわて銀河鉄道」は、運転本数の増加や、最終列車発車時刻の延長など、さらに利用しやすくなりました

沿線路線図



リングをモチーフにした「はやて」のシンボルマーク



「はやて」は全車指定席
座席数が約30%増えて814席になりました